

綴子大太鼓で卒業を祝福

市内小中学校で卒業式

3月17日、市内の小学校9校で卒業式が行われ、このうち綴子大太鼓祭りでは知られる綴子地区の綴子小学校では、保護者らが太鼓を打ち鳴らし41人の卒業生を見送りました。大太鼓での見送りは、大太鼓保存会や保護者らの協力により同小の卒業式の恒例となっているもので、今年は、下町大太鼓保存会所有の3番太鼓が校舎の前に設置されました。式典と最後のホームルーム、記念撮影を終えた卒業生が玄関から出ると、在校生や教職員、地域の皆さんと一緒に大太鼓がお見送り。保護者らが伴奏と打ち手を務める大太鼓の迫力ある演奏に送られて、たくさんの思い出と希望を胸に学び舎を巣立ちました。



迫力ある大太鼓の演奏で送られる卒業生(綴子小)

内陸線再生に応援歌完成

板垣さん親子らでCD制作

内陸線を残したいという思いから板垣吉郎さん(米内沢川向)が作詞、今西昭雄さん(埼玉県所沢市在住)が作曲、板垣さんの長女で今西さんの妻祐子さんが歌を吹き込んだCD「秋田内陸線ひとり旅」がこのほど完成し、応援歌として内陸線の再生に一役買うことになりました。

この歌作りの話しが持ち上がったのは昨年の3月。乗客減少により存続が危ぶまれる内陸線を残したいという思いから、「桜吹雪の武家屋敷」「真冬に舞い咲く紙風船」「マタギ峠を越えてゆく」「夜空にきらめく星くずよ 森吉山ろく小又峡」「想い届けと大太鼓」など沿線の風景や行事が歌詞に織り込まれ、心地よいメロディーと歌声で、その光景が連想されます。

板垣さんは「自分のふるさとの良さを今一度思い直し、内陸線に乗って昔の思い出を実感してほしい」と話していました。

このCDは、秋田内陸縦貫鉄道の売店などで販売されています。



内陸線応援歌を制作した板垣吉郎さん



合川地区の伝統行事「万灯火」。8月14日には合川橋付近で「合川まと火」が行われます

春の訪れを知らせる炎

春彼岸「万灯火」

春彼岸の中日にあたる3月21日、合川の伝統行事「万灯火」が各集落で灯され、炎の放列が残雪の山々に浮かび上がりました。

この行事は、古くは奈良時代より行われているといわれ、墓場に灯りをつけ、川原や山の上にたいまつを灯し、精霊がその火を道しるべとして家々に舞い戻り、子孫のもてなしを受けるとされています。

以前は、集落の戸数だけの万灯火をワラで作って燃やしていたそうですが、現在は、古い布を丸めて作る「だま」に油を付けて燃やし、先祖の霊の供養と共に、豊年満作、家内安全も願っています。



雨にも負けず、力いっぱい走る選手

残雪のコースを力走

第13回打当温泉スキー大会

第13回打当温泉スキー大会が3月19日、阿仁打当地区特設距離会場で開催され、小学校1年から3年生までの男女合わせて108人が、残雪のコースを力いっぱい走り抜きました。

この大会は、奥阿仁地区のマタギスタフが中心となって、地域の活性化を図ることを目的に行われているもので、一昨年末では大回転の部と距離の部で競技していましたが、昨年からは距離の部だけの大会となりました。

参加したチビッコ選手たちは、ときおり降る雨にもめげず、家族や友だちの大きな声援を受けながら、1・2年生は1キロ、3年生は2キロのコースを走り、今シーズン最後の大会を終えました。

手作りイースターエッグで楽しむ

キッズのイースター・パーティー

森吉公民館講座の「キッズのイースター・パーティー」が、森吉コミュニティセンターで3月18日に開催され、参加した親子が卵塗りやバスケット作りなどを楽しみました。イースターとは、キリストの復活を祝う日で、参加者は国際交流員のアンジェラさんからイースターについて学んだり、頭にかぶるウサギの耳やペットボトルを利用したバスケット、エッグホルダーなどを作りました。

日本ではクリスマスと違い、あまりなじみのない行事ですが、この日の参加者は、卵をカラフルに色づけするイースターエッグ作りを通してイースターを楽しんでいました。



オリジナルのイースターエッグ等を作る子どもたち

元助役今野實氏が逝去



元鷹巣町助役の今野實氏が、3月6日午後11時9分逝去されました。享年73歳でした。

今野氏は、昭和25年横手工業高校を卒業後、県立蚕業技術員養成所を経て、養蚕農業協同組合に就職。39年比内蚕業技術指導所で退職後、同年4月から59年3月まで5期20年間町議会議員を務めた後、町社会福祉協議会事務局長、62年6月に助役に就任し、平成3年5月まで努められました。

議員時代は、8年間教育民生常任委員会に在任し、児童の教育振興や福祉機関の設立、福祉施設の整備、町全体に関わる施設の立ち上げなど、町民の一体感醸成のため尽力されました。

助役時代には、企業誘致に積極的に取り組み、若者の定住促進と雇用の安定確保に努めたほか、長年の懸案であった秋田内陸線の全線開通に尽力されました。また、秋田県北部地域住民悲願の「大館能代空港」の誘致に積極的に取り組んだ成果は、その後の第6次空港整備5ヶ年計画への組み入れや平成10年の開港につながり、鷹巣町はもとより県北地域の発展と活性化に多大な業績を残されています。

退任後は、平成4年6月から旭町自治会長として自治会組織をまとめ住民自治の発展に貢献するとともに、鷹巣中央町内会長協議会長として、地域住民と行政のパイプ役として尽力されました。ここに謹んで、市民の皆さまとともに哀悼の意を表したいと思います。